

2022 榎若葉学帽はるか傘寿会

令和4年5月18日

6組 瀬戸章嗣

先週、コロナで年越しになっていた11期の傘寿を祝う会があり、53人（内女子3）がゆったりした広間で、3時間以上も楽しく過ごしたあと、集合写真に納まり、校歌を唄い、記念文集「榎の香」と集合写真を頂いて帰るということがありました。

まずは、今回の会開催と文集編集を実現して下さった執行部に心から感謝申し上げます。

手元にある卒業記念アルバムには、397名（内女子6名）の写真がありますが、今回はその8分の1（女子は2分の1）が集まったわけで、日本人の平均寿命が伸び続けてきて、2020年で女性87.74歳、男性81.64歳と発表されるも、日常生活に支障がない健康寿命は、2016年で女性74.79歳、男性72.14歳とほぼ10年前に不自由になっているようですので、傘寿会への参加は、全員が健康面で平均以上に恵まれている賜物であり、ご同慶の至りです。

発言者のお話は、どれも80年を過ごしたならではの味わいある内容で、中には、同期でもいままで知らない人だったのが、こんな人生を過ごしてきたのかと思う話もあり、面白く、新しい縁を結ばせて頂いたと思いました。また、家に帰ってから読み進めている文集には、興味深い情報が詰まっており、これからゆっくり読ませて頂き、自分の今後の人生の参考にさせて頂きたいと思っていますところでは。

私も会場で、最近Facebookから送られてきたメールに、80歳で3万日生きることになるとあったことに触れ、私としては、喜寿で習い始めた俳句が面白いので、何かを始めることは良いと思うと報告し、自分はあと1万日生きてみようと思っていると言いました。

これは実は、1日1句を目指す俳句作りでの、最近のスランプ感に対する活入れでもありますが、人生のホームストレッチを、楽しみを求めて、流れに合わせながらも流され過ぎない、言わば<捨>の心使いもしながら、日々を過ごそうという、私の人生戦略であります。

もちろん、不測事象対応付き戦略として、健康障害等は不測事象に考えており、その時は、無理せずにそれなりの対応をする積りを予め覚悟して、ストレス回避には努めています。

コロナ自粛で、しばらく小田原にご無沙汰していた私ですが、小田原駅隣りに新装された、ミナカ小田原は、木造棟の〈新小田原城下町〉がまず驚きで、タワー棟の会場も素晴らしいと思いました。今回は、祝う会だけで帰りましたが、そのうちに又行って、次は、新城下町を回ってみたいと思ったりしています。

文集表紙の檜の若葉を、窓の外に見るように見たところ、はるかな青春時代の、自由な精神向上への憧れが蘇る気がして、これからは工夫して、とらわれない自由な精神を大事にしながら生きていこうと思ったところです。

以上